

2014.10.26 聖別会

# IMMANUEL

インマヌエル

中目黒キリスト教会

聖別会マンスリー



2014年

＜聖化の豊かさを味わう＞「聖化の説教」③  
「御名をあげさせたまえ」（創世記 32:22-32）  
フリーメソジスト西田辺伝道所・岩本助成牧師

**A. 名前について**

- ・私たちは名前によって他者と向き合う
- ・主の祈りは、神の御名をあげ、御名を聖とすることから始まる。
- ・名前は人格そのものである。従って、御名を崇めるとは、心身を捧げて従うこと、賛美し、礼拝することである。

**B. 創世記 32 章でのヤコブの状況**

- ・相続権を巡って騙した兄エサウを逃れてアラムに行ったヤコブは、20年後に、家族と財産を伴って故郷に戻ってきた。
- ・ヤボク川に着いたヤコブは、家族を先に渡河させ、独り残った。復讐への脅え、自己中心主義との葛藤は、中心課題ではなく、この記事の中心は「名前の課題」である。

**C. 三つの名前**

1. 「有って有る」神

- ・ヤコブは、見知らぬ旅人と組み合せて、その名を問うた。
- ・神は、ご自身を「有って有る」神と示されているのに、「神の名は？」と問う不信仰のヤコブを、責めることなくその所で祝福された。

2. ペニエル（神の顔）

- ・神と顔と顔を合わせてお会いした記念として

3. イスラエル（神は戦う）

- ・神は戦い、勝利を取り給うとの意味

- ・それは、ヤコブ個人だけではなく、民族の名前となった
- ・救いが、ヤコブ個人から民族へ、そして全世界に広がるという証しの名前

#### D. 「わが名を呼びてたまわれ」

- ・自分の名前を忘れた老人のエピソード

#### E. 「来たれ、知られざる旅人」 C・ウェスリ

「我が弱れる時、ちからは湧き出でん。  
 我がくずおるる日、み助け現れん。  
 力をつくして、この身は争う。  
 われは、勝ちうべし、か弱き身なれど、  
 我が祈り聞き、答えを与えよ。  
 君こそは『愛』という、主にあらずや。  
 げにみ名こそは『愛』と言う他はあらず。  
 君は愛に富む、恵みの神なり。  
 その名、その性（さが）等しく愛なり。  
 我、生ける限り、御名をほめ讃えん。  
 弱きに力を、嘆きに慰め、  
 与える君をば、呼ばまし『愛』とぞ。」  
 （インマヌエル讃美歌 277）

終わりに：主のお名前と本質は愛と捉えよう。